

子ども総合センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第76号) 令和4年10月号

今すぐ命を守る行動を・・・

今年の夏も暑かった。ここ数年、夏の暑さが身に応える。早朝より 30℃を超え、日中には 36℃～37℃に達し、体温を超えた暑さに見舞われている。地域によっては、40℃を超えたとする報道も再三耳にするようになってきている。今から 50～60 年前。私が子どもの頃の夏は日中に 30℃を超えるか超えないか程度で、午後 3 時過ぎには夕立が必ずあり、涼しくなった思い出がある。

地球温暖化が今のペースのまま続くと、2030 年代初頭に世界の平均気温の上昇幅が 1.5℃に到達するとの評価報告書案 (国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) がまとめたもの) が報道されている。予測より 10 年早まっているようだ。確かに、今は確実に暑くなっている。このまま気温が上昇し続けると「心配」を乗り越えて「危険」である。

ここ数年、天気予報やニュース等で報じられる時、「今までに経験したことのないような大雨」「100 年に一度起こるか起こらないかの災害」「今すぐ命を守る行動を・・・」等の言葉をよく耳にする。ゲリラ豪雨に超大型台風の上陸、巨大竜巻の発生、熱波に伴う火災発生、海面の上昇・・・と、不安は募るだけ。この世界が安心・安全に暮らせる世の中になるためにも、各国の地球温暖化対策は急務である。加えて私たち一人一人の意識改革も問われている。親から子へ、子から孫へと繋いでいくためにも、節電、節水、節約等、できる事から温暖化対策に協力していきたい。(K・H)



適応指導教室「はばたき」 約束したくなる大人になろう

言葉は、相手の心に一生消えない傷をつけてしまったり、絶望させてしまったりすることがある。反対に言葉で相手の心を温かくし、一生その人の心の支えになることもある。ふだん何気なく発している言葉は、人の心を動かす大切なものであると、最近感じている。

子どもは言葉を通して、いつも大人の本音を聞きたいと思っている。しかし、親や大人が立場上、もっともなことを話していると子どもはすぐに見抜いてしまい、心を開かない。



そこで、自分の失敗なども話しながら自然体で子どもたちに合わせたやり取りをしていると子どもたちからぽつぽつと本音が聞けるようになる。「大人になるって楽しいんだ。」という事を子どもが感じ、大きくなることを楽しみにして生きぬく子どもを育てることが大切だと実感している。

子どもの言ったことにすぐに反対したり頭ごなしに指導したりすることを控えると、子どもが変化してくると思う。子どもの気持ちになって人間として本音で向き合うことができる大人、また会って話したいと「約束したくなる大人」そんな大人でありたいと思う。

はばたきのTEL 089-989-5022 直通の携帯 080-2974-4581



♪ エール ♪

♪しあわせは歩いてこない だから歩いてゆくだね…腕を振って足をあげてワン・ツーワン・ツー 休まないで歩け♪ (水前寺清子「365歩のマーチ」)

日本国中が高度経済成長の一種異様な高揚感に包まれ、「24時間戦えますか?!」と、今の若者が聞いたら卒倒しそうなCMのフレーズとともに、私たちは懸命に働いてきました。疲れた心身を奮い立たせたのはスタミナドリンクではありません。

「人生の応援歌」といわれるものを誰しも持っているのでしょうか？ 私は長い間、♪あなたの夢をあきらめないで…負けないように悔やまぬように あなたらしく輝いてね♪(岡村孝子「夢をあきらめないで」)と心の中で歌いながら折れそうになる膝を支えてきました。近年は、孫と一緒に見て知った「ぼよよん行進曲」(NHKおかあさんといっしょ)

に励まされ勇気づけられながら、老体を支えています。

NHKの「おかあさんといっしょ」の歌には、子どもだけに聴かせるには勿体ないような良い歌がたくさんあります。ぜひ聴いてみてください。きっとあなたのエールとなる歌が見つかるでしょう。

※だいすけおにいさん、たくみおねえさん、カムバック！ (T.K)



センター長のつぶやき

最近の読書から(6)

「小説 土佐堀川」 女性実業家 広岡浅子の生涯

古川 智映子 著

この夏、東京の友人から、高校の時に古川智映子先生に教わったという話を聞いた。古川先生は5年間しか教鞭をとらなかったのだが、彼女は幸運にも古川先生に教わったのだ。作家となった古川先生の本を読みたくて、あのNHK連続テレビ小説「あさが来た」の原案本「小説 土佐堀川」を手にした。

この朝ドラは、放送されると、世紀一の視聴率をあげ、主題歌「365日の紙飛行機」(AKB48)は、日本中で歌われることとなった。

私も、この時から主演の浅子を演じた、波瑠さんのファンとなった。

幕末の京都、豪商三井家に生まれた浅子は、17歳で大阪の両替商、加島屋広岡家に嫁いだ。女性でありながら、商いの道に邁進し、歴史に名を残すこととなる。

浅子の座右の銘は、「九転び十起き」。人の何倍も努力し、転んでもただでは起きず、何かをつかんでまた起き上がる。浅子の負けん気や、力強い生き方が表れている。

生涯3度の命の危機を克服し、大正8年1月(71歳)。病床に集まった家族や、かわいがっていた井上秀(日本女子大学初女性校長)、市川房枝(婦人参政権運動・参議院議員)などに向かって、自ら設立した「加島炭坑、加島銀行、広岡商店、大同生命、尼崎紡績」そして「加島屋ばんざいっ」と、大きな声を発し浅子は眠るように息絶えた。皆も同時に「加島屋ばんざい、ばんざい」滂沱(ぼうだ)と落ちる涙を、もう誰も拭う者はなかった。

その瞬間、愛する家族との別れを思っか、私の目にも涙が溢れた。

(DOIG)



巡回発達相談

コロナの影響 その②

マスクの着用が少し緩まりましたが、園では3歳児からマスクを着用しています。先生も着用しています。どうしても表情が分かりにくく、怒っているのか笑っているのか目で訴えないといけないと先生方は苦勞なさっています。年齢が低い子などではマスクの後ろには何も無いと思えて恐怖を感じる子もいるそうです。

夏の暑い間は熱中症との兼ね合いも考えなくてはなりません。口の周りに過敏さがある子には酷なことを強いてしまっています。

ある園では、注意しないといけない場面では、話した後に距離を取ってマスクを外して無言でわざと険しい顔をして「だめよ！」と示していたそうです。もちろん、嬉しいときはにっこり顔も。

表情が読めない子が増えそうですが、現場の先生は工夫をしながら努力されています。

(A)

伊予市子ども総合センター
〒799-3127 伊予市尾崎3-1
総合保健福祉センター2階
(電話) 089-989-6226